

次世代型海藻養殖による豊かな伊勢湾再生事業-Ⅱ

黒ノリ養殖支援

岩出将英・勝田孝司・倉田恵吉

目的

本県の黒ノリ養殖業では、生産者に対して養殖環境についての情報提供や病害等の対策を指導するなど、きめ細かな対応が求められている。

本事業では、漁期中にノリ漁場栄養塩調査およびプランクトン調査を実施し、その結果を迅速に生産者へ発信するとともに、その後の対応策等についての情報を提供することで黒ノリ養殖生産の安定化を図ることを目的とした。

方法

1 今漁期の気象の特徴について

気温、降水量は、津市（津地方気象台）のデータを用いた。

2 今漁期の海況の特徴について

水温は鈴鹿市白子港（午前10時）のデータ、栄養塩量は桑名地区を除いた県内17漁場のDIN平均値、プランクトン発生量は県内16漁場の最高発生密度を用いた。

3 共販結果について

三重県漁業協同組合連合会発表の共販結果データを用いた。

4 ノリ芽検診・病害診断等の養殖指導

漁期中において生産者から送付、持ち込みされたノリ網や葉状体サンプルについて病害診断等の養殖管理にかかる指導支援を実施した。

結果

1 今漁期の気象の特徴

今漁期の海況の特徴

図1に今漁期（令和2年9月から翌年3月）と平年（昭和56年から平成22年）の気象（気温・降水量）の動向を示した。気温は、1月上旬から中旬にかけて平年を下回った以外は概ね平年より高めで推移した。降水量は、10月に台風14号（10月9～11日）の影響により平年よりかなり多めとなった。漁期序盤の11月上旬から1月中旬にかけて平年より低めで推移し、漁期終盤の3月は

平年より多めとなった。

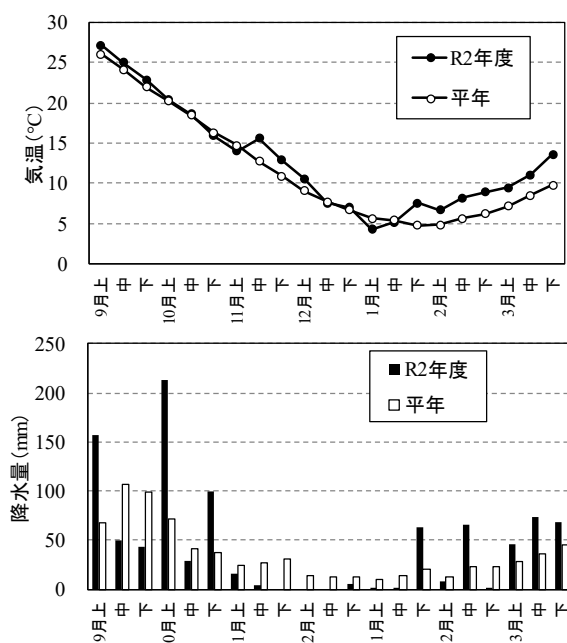


図1. 今漁期の気象動向（上：気温，下：降水量）

2 今漁期の海況の特徴について

図2に今漁期（令和2年10月から翌3月上旬）と平年（平成22～令和元年度）の水温及び今漁期のDINと珪藻プランクトン発生量の推移を示した。水温は、10月から11月中旬ごろまでと、12月中旬から1月中旬ごろまでは平年より低めで推移し、その他の期間は概ね平年並みから高めで推移した。DINは、10月上旬と下旬のまとまった降雨によって一時的に100 μ g/Lを上回ったが、1月中旬にかけて降雨が極端に少なかったため、50 μ g/L程度で推移した。1月下旬から2月中旬にかけて定期的な降雨があったが、*Chaetoceros*属と*Skeletonema*属を優占種とした小型珪藻プランクトンが比較的高い密度で発生したことにより低位で推移した。

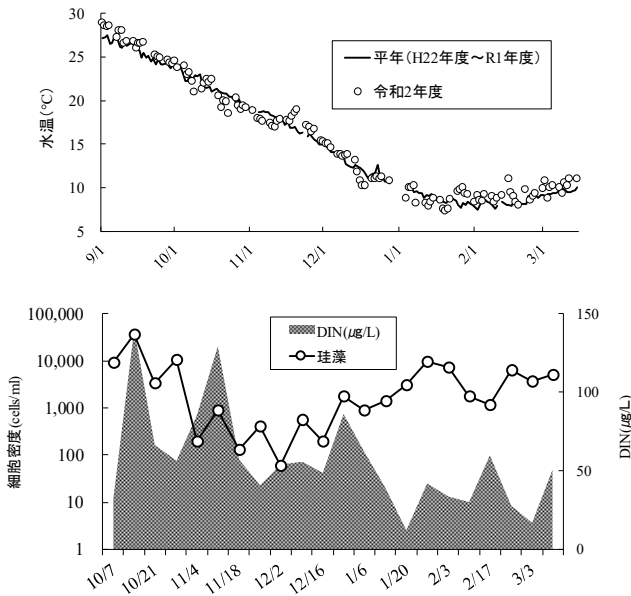


図2. 今漁期の海況（上：水温の推移，下：DIN量と珪藻プランクトン発生量の推移）

3 共販結果

令和2年度漁期の共販は、全9回開催され、生産枚数1億4,300万枚（前年度比117%）、生産金額13億4,600万円（前年度比85%）であった。平均単価（枚）は、942円（前年度比73%）であった。

共販汐回別の生産枚数と平均単価について図3に示した。単価は、漁期通じて昨年度よりかなり安く推移した。2月上旬ごろから桑名漁場を除く広範囲の漁場で色落ちが発生したことにより、5回汐以降では色の浅い製品が多く出品された。

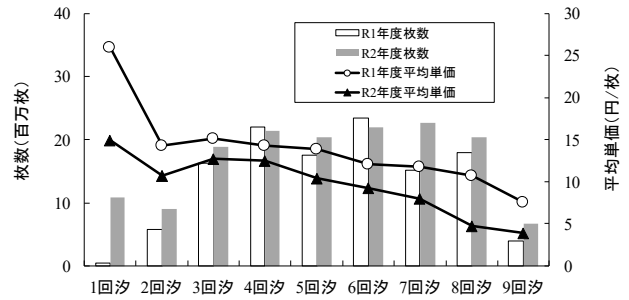


図3. 汐回別生産枚数と単価の推移

4 ノリ芽検診・病害診断等の養殖指導

漁期中に県内漁場の栄養塩動向調査およびプランクトン発生調査を合計23回実施し、生産者および関係部署あて情報提供を行った。また、生産者の要望により随時ノリ芽検診および病害診断を実施し養殖管理にかかる指導支援を実施した。ノリ病害については、漁期終盤に一部の漁場であかぐされ病が散見されたが、大きな被害にはならなかった。また、近年発生が確認されている疑似しろぐされ症様のノリ病害は漁期通じて発生しなかった。